

令和5年度学校経営計画表

Ⅰ 学校の現況

学校番号	46	学校名		県立土浦第一高等学校			課程		定時制		学校長名		プランク ヨゲンドラ			
副校長名	日向 久					教頭名		慶野 清貴			事務(室)長名		大森 伸一			
教職員数	教諭	7	養護 助教諭	1	常勤 講師	0	非常勤 講師	2	実習教諭 実習講師 実習助手	0	事務職員	5	技術職 員等	6	計	25
生徒数	小学科		1学年		2学年		3学年		4学年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		14	10	15	10	12	3	12	9	53	32	4			

Ⅱ 目指す学校像

項 目	詳 細
生徒	・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できる総合的な成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め広い視野を持てるような成長を目指す。
教員	・自ら仕事の効率化を図り、余裕を持ち職場や仕事の内容における改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・常にリスクリングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、その知識の生徒への還元も目指す。
学校	・整理整頓ができて、生徒が明るく学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。
連携	・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良いより強い教育基盤の構築を目指す。

Ⅲ 三つの方針(スクールポリシー)

ポ リ シ ー	詳 細
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	・創意工夫を生かした質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・部活動や学校行事を推進し、自主、協働、厚意の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な意見を受け入れ、協働する精神を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる充実を図る。

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	・自らを分析・理解し、高い志を持ち、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土ーネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。 ・生徒の希望進路実現 100%を目指す。
---------------------------------------	---

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	多様な生徒が在籍しており、学力や学習意欲に差が見られるため、学力や意欲向上のためのきめ細やかなサポート体制が大切である。	社会人として必要な知識をいかに修得させ、自ら学ぼうとする様々な取り組みを、ICT等の活用も含め、工夫していく必要がある。
進路指導	進路希望は多岐に渡っており、生徒自身の将来の希望をかなえるため、職業を考える取り組みを大切にしている。	自分の適性を知り、職業を知り、進路目標を持つ。段階的な指導をしていくことで、将来の進路を考える機会を多く与えている。自己肯定感や達成感を重ねる活動がより大切になっている。
生徒支援	笑顔で登校している生徒が多く、安全・安心に学校生活を送っている生徒もいる一方、欠席や遅刻が増えたり、頭髪やスマホの使用法について指導をする機会が増えている。	成人年齢も 18 歳となり、これまで以上に高校段階で知っておかなければならないことが増えている。HRや授業、集会等での丁寧な指導がより大切になっている。
特別活動	運動部及び文化部が月・水・金の週3日、放課後に活動している。集団活動を通して得られた達成感・自己肯定感は、何事にもかえがたい貴重な財産となっている。	個々のコミュニケーション力を育むとともに、生徒に活躍の場を多く与えることが必要である。
働き方改革	資料等のペーパーレス化、授業や校務の効率化を更に推進することが出来る。 業務分担の適正化等、WLB を更に推進することが出来る。	ICT活用など労働時間短縮に向けた取り組みは行っているが、大きな時間短縮とはなっていない。創意工夫をこらした授業や考査問題の作成、多様化する進路への対応、部活動の指導など特色ある教育活動のために、業務改善の工夫が必要である。

5 中期的目標

項 目	詳 細
生徒	・進路意識の育成:個人面談、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人ひとりの高いレベルでの自己実現を支援するための進路指導を推進する。 ・自ら学ぶ意欲の喚起:学力向上に資する特色ある教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力等を育むために、より効果的な教科指導を実施する。 ・健全な心身の育成:特別活動を充実させ、部活動・学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。 ・教育相談の充実:生徒の心情への理解を深め、より適切な指導・助言のあり方を探る。 ・主体的に行動出来る生徒の育成:探究活動を展開し、地域で活躍できる生徒の育成を目指す。

項 目	詳 細
教職員・学校組織	・周辺の変化を意識: 周辺の変わるスピードが速く、自らの作業工程を分析し、常日頃の改善を工夫する。 ・働き方改革の推進: 教員の心身の健康維持とWLBの向上に努めると共に、時間的・精神的に余裕のある教育活動を展開できるよう努める。 ・ベストプラクティスの共有: 教員及び教科間でベストプラクティスを共有し、互いに成長を促し、学校全体の成長を目指す。 ・失敗を恐れない精神: 全てのことに積極性をもって楽しく取り組む。失敗から学び、次に活かす。まずは、考えてみる、やってみるという精神を構える。 ・生徒ファーストの推進: 生徒の目線に立った指導を心がけ、何事においても生徒のメリット・利便性、教員のWLBを優先して進める。
学校全体	・信頼関係の育成: 教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保出来る学年・ホームルームを運営する。 ・ICT活用の推進: 授業改善を果たすと共に、生徒や教職員の情報活用への興味・関心を高める。タブレット等を駆使した教授法の研究や展開に努める。 ・中高一貫校の推進: 高校と附属中学校が連携・協力し、互いの良さを学校の活力につなげ、生徒の一貫した育成につなげていく。 ・本校魅力の発信: 入学希望者を増やすために、学校のHP・通信等を更に充実させ、本校情報を積極的に配信し、地域との連携を強化する。 ・プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
①高い志 (=信念・厚意) の育成	① 高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ② 生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 ③ 将来において、地域でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。 ④ 学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの活用、キャリア教育、進路支援などを通じて生徒が自ら進路を拓けること。
②自己理解による主体的学習態度の育成	⑤ 授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ⑥ しっかりしたタイムマネジメントと主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。
③授業改善 (AL 型授業展開等) による生徒の理解度向上	⑦ 指導法の研究を各教科で行い、深い学びの場の提供に努める。 ⑧ 研究授業の開催、相互授業参観、先進校視察や校内研修会を通して、授業改善及び指導力向上を図る。 ⑨ 生徒による授業満足度 3.0 以上を目指す。
④豊かな人間性の涵養による心理的安心の向上	⑩ 挨拶の励行に努め、好ましい人間関係をつくる能力を涵養する。 ⑪ 社会の一員であることを自覚させ、責任ある行動がとれる人間の育成に努める。 ⑫ 規範意識の高揚を図るとともに、清潔感のある身だしなみを意識できるよう支援する。
⑤探究活動を通じ進路活動	⑬ 3修3卒希望者に対し、より大きな支援をする。 ⑭ 生徒一人一人の希望に沿った細やかな指導を実施し、各生徒の進路実現に努める。 ⑮ 進路情報の収集と提供に努め、進路に関するホームルームなどの充実を図る。
⑥学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携	⑯ 学校の情報を積極的に発信するために学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑰ 地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や近隣の方との交流を図る。
⑦中学生と高校生の積極的交流の推進	⑱ 授業・部活動・探究学習などの内容を段階的に身に付けられるように、効率的な連携を工夫する。 ⑲ 附属中において人格形成、課外活動、言語能力などに重みをおき、総合的な学びを図り、高校での学びの基礎とする。

重 点 項 目	重 点 目 標
⑧ICT 機器の活用などによる効果的授業の実現	⑩ ICT機器の効果的な活用を通じて、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ⑪ 授業改善を考える手立てとして、先進的な事例紹介等の機会を増やし、研修の充実を図る。
⑨働き方改革の推進による WLB 向上	⑫ 学習指導等の質の向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ⑬ 在校時間の自己管理や休暇が取得しやすい環境づくりを推進し、働き方の意識向上に努める。 ⑭ 超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。